

原発ゼロをめざす長野県連絡会

第17号

2013. 3. 27

事務局 〒381-0034 長野市高田 276-8 長野県労連内

TEL 026-223-1683 FAX 026-227-1783

ホームページ <http://w2.avis.ne.jp/~krm-jim2>

原発なくせ！

県内18カ所で4,600人が行動

3月8日から11日の期間に県内18カ所で行動が行われ、約4,600人が参加しました。今年の行動は、総選挙で自民・公明政権が復活し、原発再稼働への動きが強まる中、草の根から、そして長野県から「原発ゼロ」を大きく発信しようとの思いが示されました。

《松 本》

松本協立病院では3/10の午前中に、1997年に自然エネルギーの電力会社を設立したドイツにあるシェーナウ市の取り組み「シェーナウの想い」DVD上映会を企画しました。脱原発は実現できる、親たちの手ですでに自然エネルギーへの転換を実践している市がある！このDVDを見て、確信を持って午後の集会に参加したい、という意図がありました。30名の入場者の中には信州大学医学部の学生がおり、「住民投票に勝つシーンは観ていてワクワクしてきた」と上映後の感想交流で発言しました。また彼は「とても楽しかったので午後の集会にも参加することにした」と元気にパレードにも参加しました。



心配された雨も開始時には上がり、背伸びをして前を見ても後ろを振り返っても連なった1500人の列は、原発事故を風化させない誓いを叫びました。

《飯水岳北》

長野県最北、飯水岳北地域では、「なくそう原発 3・9 飯水岳北のつどい ～ わすれない・つながろう フクシマ～」の集会を、3月9日（土）、飯山市民会館3階の小ホールで開催しました。「①鎮魂、つながろうフクシマ②現代科学で制御できない原発をゼロへ③柏崎刈羽原発の再稼働を許すな」をテーマに60名が集い、



交流しました。集会のオープニングとエンディングは、全員の歌声だったこともあり、原発ノーの願いで集った仲間のつながりは、さらにながら強まったように思います。

とかく集会というスピーチが主になりますが、今回はDVD「未来への決断 ～ノーモア原発～」の中の第1章「原発に奪われたいのちと暮らし ～父を返せ・故郷を返せ～」(17分)を視聴しました。この映像により改めて怒りが込み上げてきました。討論では、短い時間でしたが運動への要望や意見が積極的に発言され、今後の運動への期待感が伝わってきました。事務局からの訴えの後、集会アピールを大きな拍手で採択し、閉会としました。なお、野沢温泉村村長・村議会議長・教育長から脱原発・地の利を生かした発電の推進について、地方自治体として始動している旨のメッセージが紹介され、今後の運動を励ます内容に大きな拍手が寄せられたとともに、大きな確信を感じました。

《長 野》



取り組み、寄せられた1000枚の黄色いハンカチが会場にはためきました。呼びかけ人の3人の挨拶と福島から避難されている今野さんの訴えに続いて、参加者の皆さんから、原発再稼働は許さない、原発ゼロに運動を強めようとのそれぞれの思いが訴えられました。

「つながろうフクシマ! ひろげよう脱原発! 3.10 in 長野行動」には、悪天候の中を約500人が参加しました。集会には、長野医療生協の皆さんが「黄色いハンカチプロジェクト」に



《飯 伊》

3月10日(日)午前10時から飯田市鼎一式において「3.10 いやだに原発・ウォーク in Iida」が飯田下伊那の各地から250名の住民(子供を含め)が参加し、集会・パレードを行いました。



当日は、天候が急変し強風と時雨模様のなか、会場はアップルロード沿いで休業中のパチンコ屋さんの駐車場をお借りして開催しました。午前10時からオープニングのうたごえ、10時30分から集会開会し、実行委員会代表の唐澤慶治さんがあいさつ、続いて事務局から経過報告と、福島からのメッセージを披露し、続いて行なわれたリレーアピールでは、小さな子供を持つお母さん10数名が、お子さんとともに登壇し「放射能から子供を

守りたい」「子供を自然の中で育てられない日本には絶対にさせない」などの訴えをしました。また、「脱原発アクション飯田」の小林さんは、交差点でスタンディングを行なっている報告と、飯田市議

会議員へ「公開アンケート」に取り組んだ結果を報告しました。続いてアピールと中部電力株式会社への要請文の採決を行い30分ほどで集会は終わりました。

会場では、「福島、岩手の支援物資販売」を飯田民商の仲間が行ないました。パレードは、国道153号線で通称「アップルロード」という片側2車線の飯田では大変交通量の多い道路を2キロ余のコースで行い、参加者はそれぞれプラカードやゼッケン、デコレーションを持って行進しました。多くの車の中から激励の声援も聞かれるなど、集会には参加していなくても「脱原発」は多くの市民の共通の願いであることを強く感じました。（笹岡）

《木 曾》

上松町の県木曾勤労者福祉センターで10日、「脱原発木曾ネットワーク」の設立総会及び「自然エネルギー」に関わる学習会が行われ、30人が参加しました。木曾では恒常的な脱原発の組織は初めて。冒頭参加者全員で黙祷。活動の柱として、「原発の廃止・廃炉」に向けた活動・再生エネルギーに関連する活動や、キャッチフレーズ募集の提案がなされました。また、ふくしま復興共同センター代表委員・斉藤富春氏の「福島からのメッセージ」、長野県平和・人権・環境労働組合会議議長・高橋博久氏の「メッセージ」が紹介されました。意見交換では、今後の活動として福島の皆さんとの交流、ビデオ上映、原発や放射能などについての学習会などの必要が語られました。なお、家族で福島県から避難してきた方も発言。激励と連帯の拍手が送られました。



学習会では、県環境部温暖化対策課の担当者から「長野県における自然エネルギー推進施策」をテーマに、県内の先進的取組み事例が報告されました。（小松記）

《上 小》

3.9「原発ゼロへつなげるパレード」と「つながるマーケット」について
パレード

200名弱が参加し、パレードの前後ではフリートークも。パレードは子どもも「原発どっかへ行っちゃえ」など。固いシュプレヒコールはほとんどなく、「やめた、やめた、原発やめた」などをギターと歌声で。フリートークでは、女川から引っ越してこられた方が被害の実情や被災者の皆さんの苦しみを淡々と訴え、「被災地を忘れないで」と呼びかけました。また、上田市出身で今は埼玉県にいる方は、わざわざ新幹線で参加し、仕事柄得意なシールなどをつくって無料で配布していました。つながるマーケットの若いママさんたちも大勢参加し、子供たちの手をひいてパレードしました。

マーケット

今回で7回目となるマーケットは、1000人近いほどの人で会場の体育館もいっぱい。風雨が強かったため会場外で



の販売は全くダメで、すべて会場内で行われたため、カレーのにおいなども結構楽しめました。詳しくはピースウォーク上田のHPからつながるマーケットにリンクできますのでご覧ください。（鳥毛 道夫）

《安曇野》

「3・11原発いらない安曇野集会」は、私たち呼びかけ人の二人（長谷川・山岡）で、知人にまず集会参加を呼びかけて、インターネットが得意な人に頼んだり、市庁舎や支所をお願いに出かけたり、労働組合に呼びかけたり、新聞に記事を載せてもらったりして、当日70人集まりました（タクシーの運転手さんは人数には入らず）。



事前に発言を頼んでいた、3人から発言で福島から避難して来ている人、福島原発の所長の親戚、安曇野市の放射線量を測定してもらった幼稚園の関係者と飛び入りで4人が発言となりました。福島から避難されている佐藤さんは、「まだ、終わっていない、原発はいらない」と発言されました。また、福島原発の社員の話吉田さんが伝えてくれました、原発の処理をしている東電の社員は、回りの人からの言葉の暴言などで体調を崩して仕事を去って行く人が増えて、原発処理が思うように進んでいないと話されました。そして安曇野市の保育園関係者二子石さんからは、安曇野市のこどもたちは、放射能は大丈夫か？と市に頼み測定機で線量を調べて基準値より下と解ったと話されました。この保育園は、避難されて来たこどもたちもいます。その後、安曇野市のシンガーソングライター小林和彦さんと「原発はいらない」を歌唱指導をしていただき参加者とともに歌い、デモ行進を豊科駅前～豊科日赤前～豊科駅前に帰るコースでシュプレヒコール、アピールをいながらみんなで声出して最後まで寒い中を歩きました。珍しいのか歩行者や車の中から見ている人、手を振ってくれた人もいました。最後に呼びかけ人より、原発は日本に54基あります、これから一人一人が原発のことをどうするか、この集会のことを話して広げてほしいと伝えて終了しました。今後の集会のあり方などは、検討中です。

《大 北》

”震災復興・原発ゼロ 3.10 行動 in 大北 集会”に大町市の方々をはじめ、大北地区の方々約120名が参加しました。小雨と風の中、復興と原発ゼロを訴えました。集会では、”震災復興を急ぎ、いまずぐ原発ゼロの決断を求める決議”を採択しました。そして、約3.5kmのデモ行進を行い、国道や、大町商店街で震災復興と原発ゼロを訴えました。（大北労連議長 山極）

《中 野》

わすれない！3.11 なくせ原発！中野市民の集い

日時 3月11日（月）午後5時30分より 場所 中野陣屋前広場

なくせ原発中野市準備会の呼び掛けに応じて、晴れてはいるが気温は2度と肌寒いなか年金者を中心に参加者が集まってきました。集会は司会者挨拶と経過報告、原発ゼロ《3.10》全国イッセイ行動にあたっての福島からのメッセージ、の紹介、反原発集会へのメッセージの紹介、準備会の実行委員会に移行させる委員の選出と今後の取り組みを決めて散会。参加者は40名でした。